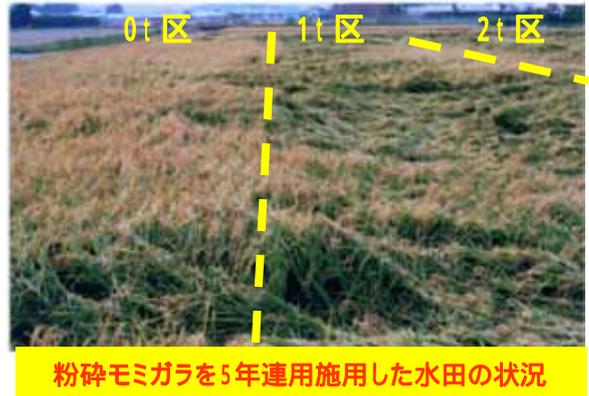
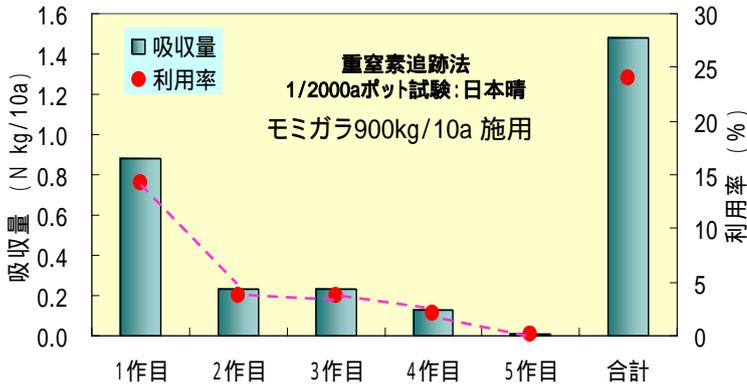
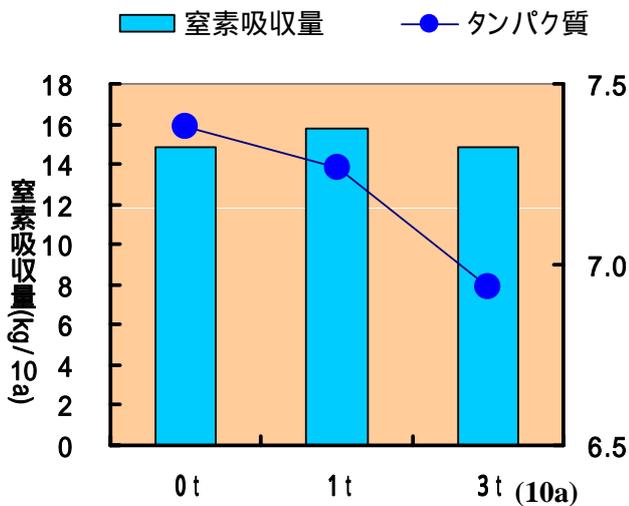


水稲に対する粉碎モミガラの施用効果

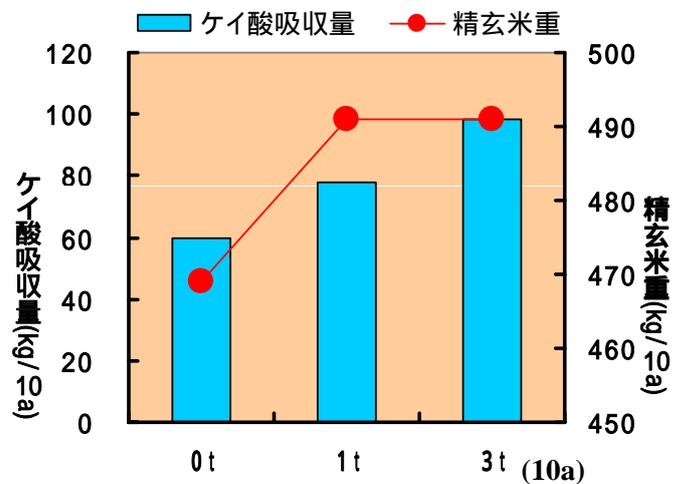
兵庫県内80数か所の共同乾燥施設から排出されるモミガラ量は年間1.3万トンと推定されます。そのうち約7割が敷料、2割が業者引き渡し、1割が堆肥化資材として利用されています。また近年、モミガラ粉碎施設が10か所余り稼働を始めました。兵庫県では、この貴重なモミガラ資源をさらに有効に利用するため、粉碎モミガラを水田にリサイクルする技術を研究しています。



モミガラ由来窒素の水稲への吸収量と吸収利用率



粉碎モミガラ施用が窒素吸収と玄米のタンパク含有率に及ぼす影響



粉碎モミガラ施用がケイ酸吸収と収量に及ぼす影響

まとめ: 粉碎モミガラを10a当たり3トン程度施用すれば、

初期肥効が期待できる 基肥省略、追肥重点栽培が可能となります。

窒素吸収抑制、ケイ酸吸収促進、玄米タンパク含有率低下 高品質で、高収量が達成できる水稲栽培ができます。

連用施用の残効蓄積 減肥栽培が期待できます。